

- ① 日本一づくり運動推進本部を設置し、関連事業の連絡調整、モデル事業の選定を行う。
- ② 県事務所単位の推進連絡会議を作り、各地域づくりの相談を随時行う。
- ③ 市町村長・県事務所長を対象としたセミナー、地域リーダー・一般県民を対象としたシンポジウム開催などによる啓発活動を行う。
- ④ 日本一づくり運動関連事業を網羅した実践手引書の作成や、モデル事業の紹介を行う。
- ⑤ 産品づくりなど地域づくりの先覚者の顕彰制度をつくる。

などを考えています。

この運動を展開し、成功させるためには、県民のみなさんの御協力が不可欠です。みなさんも日本一となる可能性のあるものを見直して、この運動に参加してみませんか。

✓ 第三に全国規模の大会、ユニークな催し物などイベント開催による地域づくり。

第四にスポーツ、福祉活動、健康づくりなど生きがいを求める地域社会づくりなどがあげられます。

幸い、県内各地には、日本一のもの、日本一の可能性を持つものが少なくありません。すでにそうした日本一づくりに成功を収めているもの、現在努力しているものなど、様々な取り組みが行われています。県では、今後「くまもと日本一づくり運動」を進めるにあたり、市内の地域づくりに関連する事業を総合的に運用するとともに、国の補助事業があるものについては積極的に導入して、市町村をはじめとする地域の自主的な地域づくりを盛りあげていく方針です。

具体的には、

- ① 日本一づくり運動推進本部を設置し、関連事業の連絡調整、モデル事業の選定を行う。
- ② 県事務所単位の推進連絡会議を作り、各地域づくりの相談を随時行う。
- ③ 市町村長・県事務所長を対象としたセミナー、地域リーダー・一般県民を対象としたシンポジウム開催などによる啓発活動を行う。
- ④ 日本一づくり運動関連事業を

集

市民の英知とエネルギーを集めて

(人吉市)

■5月28日、人吉市文化センターで第4期百人委員会の総会が開かれ、会場は熱気に包まれました。

以前、ある圃場整備工事の遅れで田植えが危ぶまれたとき、市民が人海戦術で工事を成し遂げ、田植えに間に合わせたということがあります。この市民のエネルギーを市政に活用しようと発案されたのが百人委員会です。

委員会は、各地域のリーダーや学識経験者、特に市政に関心をもつ人々で構成されています。もっとも名前のように委員が100人に限定されるわけではなく、今回は400人を超える委員が選任されています。しかも、無報酬で市政に参画してくれるのですから心強い限りです。

通常の活動として各委員は得意な領域ごとに、環境保全、道路、観光など21の分科会に分かれ、各分野ごとに年3、4回の会合を重ねます。

ここで出された意見や質問については、市から逐一回答が行われ、市政に活かされるものも多いと聞きます。

当初は、行政についての素人集団というこ

とで、実績があげられるか心配されましたが、市の基本計画である第2次人吉市総合計画の市民案を策定したり、市民憲章を起草するなど、大きな実績をあげています。特に今回の委員会は、九州縦貫道完成後の受入態勢の整備という切迫した問題に取り組んでいます。

このような行政への市民参加の試みは全国各地で行われていますが、「これだけ活発な活動をしている所は他にないでしょう」と市の担当職員も胸を張ります。

百人委員会に対する市民の評判もなかなか良いようです。

委員の一人、青年会議所理事長の田中さんは、「百人委員会は行政の知恵袋としての機能だけでなく、市民が市政を理解するのにも大変役立っている」と指摘しています。

今後は、市内8つの小学校区ごとに百人委員会をつくるという計画もあり、その中核施設となるコミュニティーセンターづくりが進められています。



旅



完成した宿泊施設「富神山荘」、さらにこれから建設の運びとなる石橋公園、観光果樹園、ファミリー農園、湖上遊び場基地などで、これらの施設が水と緑の美しい緑川ダム湖畔に集中することになります。砥用町は熊本市から車で40分の距離に位置し、人吉、五家荘、宮崎への中継点ともなっています。また自然環境の良さに加え、国指定重要文化財の霊台橋をはじめ23もの由緒ある石橋など、多くの観光資源に恵まれています。

日本一の家族旅行村を創る

(下益城郡砥用町)

■家族旅行村とは、30~50ヘクタールの区域内にキャンプ場やピクニック緑地などのレジャー施設を備えた滞留型観光地のことです。

昭和53年から運輸省が1県1か所を目標に指定を行ってまいりましたが、熊本では、今年、砥用(ともち)町が指定を受け、63年春のオープンを目指して建設中です。

施設の内容は、昨年完成した体育館、プール、海洋レジャー施設(ヨット、ボートなど)を有するB&G海洋センター、同じく昨年末

したが、今では観光を町発展のための一手段として捉えつつあるようです。

全国には、すでに13の家族旅行村が開村していますが、砥用町ではアイデアを凝らし、日本一といわれるような旅行村を目指したいと意欲を燃やしています。



また、町が設置した自由販売所では地域の人々が新鮮な産品を売ることもできます。更に、旅行村区域の人々、近隣農家により砥用町中央振興協議会が結成され、観光と地場産業とのかかわりに真剣に取り組み始めました。当初、「観光は迷惑だ」という声も聞かれま